様式第1（第15条関係）

会 議 録

|  |  |
| --- | --- |
| 会議の名称 | 令和5年度第3回和泉市福祉でまちづくり委員会 |
| 開催日時 | 令和6年1月17日（水曜日）午後2時から午後4時 |
| 開催場所 | 和泉市コミュニティセンター４階　中集会室 |
| 出席者（敬称略） | 【委員】桃山学院大学　名誉教授　石田　易司大阪経済法科大学　客員教授　金谷　一郎和泉市校区社会福祉協議会　代表　堀田　敏一和泉ボランティア・市民活動センターアイ・あいロビー運営委員会　運営委員長　芦田　三雄シルバーサポートこうきた　代表　道浦　勁子ども食堂ポピークラブ　代表　奥野　加奈女特別養護老人ホーム　唐国園　施設長　中島　満いずみ障がい福祉サービス事業所団体連合会　理事　柳　望市民公募委員　岡﨑　豊市民公募委員　大塚　眞知子 |
| 議案等 | 「第５次和泉市地域福祉基本計画・第５次和泉市地域福祉活動計画の素案について」 |
| 会議録の作成方法 | □全文記録■要点記録 |
| 記録内容の確認方法 | ■会議の議長の確認を得ている□出席した構成員全員の確認を得ている□その他（　　　　　 ） |
| 審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等） |
| 事務局石田委員長事務局石田委員長事務局石田委員長事務局石田委員長事務局堀田委員事務局石田委員長事務局芦田委員事務局芦田委員事務局（副市長）金谷委員事務局芦田委員事務局芦田委員事務局（市社協）岡﨑委員石田委員長事務局（市社協）事務局（市社協）岡﨑委員石田委員長事務局（副市長）金谷委員芦田委員石田委員長道浦委員事務局（市社協）道浦委員石田委員長道浦委員事務局道浦委員事務局石田委員長柳委員石田委員長中島委員石田委員長奥野委員石田委員長大塚委員芦田委員金谷委員石田委員長金谷委員石田委員長事務局事務局（副市長） | 本日出席の委員は、13名のうち10名ご出席いただいておりますので、和泉市福祉でまちづくり委員会規則第７条第2号に基づき、本委員会は成立していることを報告いたします。まず報告ということで、前回の和泉市福祉でまちづくり委員会の振り返りについて」事務局より説明お願いします。【資料に沿って説明】資料１：第２回福祉でまちづくり委員会振り返り資料今の振り返りのことについてご意見ご質問はありますか。この後、地域福祉計画と地域福祉活動計画を一本化した素案がありますので、これについて説明いただいて、またご意見をいただければと思います。地域福祉計画が「地域福祉基本計画」になっているのは何か意図があるのですか。今まで「地域福祉計画」としていましたが、社協で作っている活動計画に対して、市が作っているのはマスタープランという位置付けですので、「基本計画」と入れさせていただいています。計画素案の説明をいただいて、皆さんからご意見をいただければと思いますので、事務局の方からご説明よろしくお願いします。【資料に沿って説明】資料２：第５次和泉市地域福祉基本計画・第５次和泉市地域福祉活動計画素案【未定稿】計画のはじめには市長と社協の佐藤会長の文章が掲載されますか。市長にも佐藤会長にもお話を聴かせていただいて、それを掲載させていただきます。第4次の計画を見ますと、目の不自由な方に向けて、音声コードをつけています。今回はこのような音声コードをつけますか。まず今回の計画は冊子での発行は考えていません。データで市のホームページに掲載を考えています。データになりますので、例えば視覚障がいをお持ちの方でも、音声読み上げソフトが今は充実しておりますのでそちらで対応できると考えています。今回は音声コードを載せる予定はありません。市の方向性といたしまして、製本数は、必要な分だけ作成し配ります。市民への広報はホームページ等に掲載し、確認できるようにしようと考えています。点字は用意しませんか。点字の方はもう少し考えたいと思います。データを読み込んでページプリンターでおこすことはできますので考えさせていただきます。この資料で、公助、共助、自助などいろいろな言葉が出てきて、区分けが明確になるという意味では評価しているところがあるのですが、この文章が全体的に見にくくわかりにくいです。このように表で項目の中に入れていくのがいいのか、それとも一覧的な方がわかりやすいでしょうか。前回、取り組み一覧表という資料をお配りしていて、そちらには公助、共助をささえる公助など区分していましたが、このような表の方がいいでしょうか。全部がそうでなくてもいいのですが、どの取り組みが、共助を支える公助になるのかというポイントを先に絞った方がいいかもしれないです。基本目標に対しての取り組みの整理ですが、自助・共助・公助という整理も必要で、同時に解決するのは、2次元ではなく3次元にする必要があると思っています。介護保険事業計画や自殺対策基本計画では、各基本目標の冒頭に自助・共助・公助の表を作り、どういうことが自助で、どういうことが共助で、どういうことが公助にあたるかということをわかりやすく表につけていますので、一つのやり方として検討していきたいと思っています。今回の肝は、公助・共助・自助の区別だけではなく、自助を支える共助、共助を支える公助、共助を支える共助の概念や、それらの連携が大事ということを市民にご理解いただくことです。防災において、概念的な説明よりも、自助・共助・公助の連携と、自助をささえる共助で何をするのか、何が自助を支える共助かという具体例を挙げた方が分かりやすい。公助は市役所が、共助は市社協が、自助は自分でできないから考えないという話になって、かえって市民が孤立します。こういう話も含めて、どういう連携をしていくのかが今回の計画の肝です。ここには別の概念図、連携の事例を出した方がいいかと思います。資料2の32ページに和泉市が目指す公助、共助、自助の説明や、共助を支える共助、共助を支える公助がどういうことかという説明を書いており、ここに例や図を入れることで、市民に理解いただけるような工夫をしようと思います。前回、市民を真ん中に、地域や市との関わりを表す絵を入れるということでした。自分の立ち位置から見る地域、社協の役割、市の役割が全てわかるようにすることが大きなポイントと思います。協議の場は、校区長が協議の場、それを各関係の代表たちやその代表からさらに自分たちのグループへ下ろしていくというのは、この資料でどう記載されているか教えてください。協議の場としての取り組みは、協議の場の開催支援と情報収集、課題解決で、取り組み名称の一つ目が「各小学校区の協議の場の充実」。協議の場を活用して地域の情報を収集し、住民の困りごとを早期に発見、解決するために、小学校区単位で行政、他機関の専門職、地域のボランティアが情報交換や協働した活動ができるように協議の場の開催を支援します。また、地域福祉推進コーディネーターを配置して、福祉課題の解決に向けた取り組みを支援しますということも載せています。各小学校区別のアクションプランの実現支援として、協議の場で効果が、期待される情報提供や活動を進めるツールの作成支援などを行い、小学校区別アクションプランの達成に向け、住民主体の福祉活動への伴走支援を社協が行うという内容もあります。地域福祉計画や活動計画の認知度は低いことから、市民に届き理解される内容で、効果的な広報が行われるように、関連部署・機関と連携し、情報発信することで確認いただければと思います。できたら今おっしゃっていただいたことを、校区別刷りにして、校区の方に渡しやすく見てもらいやすい最低限数枚のページのものが欲しいと思います。このたくさんの資料は大事ですが、ポイントになる35ページ、40ページあたりのことと各校区の内容を取り出すと、皆さんにPRしやすいと思います。既に21校区のアクションプランは、計画ができた後、ニュースとして社協から発行します。校区の会長さんが、どう地域の人たちに知ってもらうかを熱心に考えてくださっていますので、市と相談しながら作らせていただきます。計画が住民の方に1人1人に伝わるようにするには、協議の場や町会・自治会を通じるのか書かれてないように思います。自治会の加入率は半分位なので、自治会のないところも含めて伝わるように協議の場のようなものが必要かと思います。自治会があるところは、それをもっと有効に活用できるような場を作ればいいかと思います。実際に協議の場でアクションを起こすのは難しいと思うので、自治会の中で、協議の場のような場を設け、実際にアクションを起こしてもらうのがいいかなと思います。今度は何をどうするのかを決めていくような場があれば思います。町会に加入されている人はもう半分位で、おそらく地域福祉にあまり興味関心を持ってないだろう。その人たちも一緒に動かさないと、この計画そのものが机上の空論に終わってしまう可能性があるということですね。校区社協会長会でも、どのように周知していくかについてお話をさせてもらいました。町会に加入の方は町会にも協力を仰いで、周知方法を一緒に考えていただく。そして、未加入の方にどう届けるかを、しっかりと考えないといけない。次の会長会でも、話し合えたらと考えていますが、校区社協の会長会だけではなかなか結論が出ないかと思いますので、ご協力いただけたら嬉しいです。追加ですが、社会福祉協議会の広報、社協いずみは全戸配布しております。その中で、この計画の策定状況は随時市民の方に発信しておりました。4月発行の社協いずみ、ホームページでも発信していきます。校区によってさまざまですが、協議の場にも、自治会、民生さんそれ以外の市民、各種の関係団体の方々などにご参加いただいていますので、来年度どう動かしていくのかを一緒に話し合って、多くの方に発信していきたいと思っています。社協いずみは、ここ最近、読みやすく中身が充実してきているかと思います。ただ、町会自治会の方のニュースと、統一的なニュースは載ってないかと思います。そこが同じになれば、町会・自治会、社協、住民1人1人に、同じ伝わり方になるので、重要さも同じになると思います。周知方法やツールの問題を一番解決して欲しいと思うところです。そうですね。その方法を模索していただいている中で、なかなか住民そのものの目が、そのコミュニティに向いてないのが、大きな課題だと思いますので、ぜひご一緒にお考えいただけたら嬉しいなと思います。地域福祉基本計画や活動計画も、統一的な内容をデータとして作るということを目指しており、この委員会はその策定内容を決める場であると考えています。その決めた内容をホームページ等に載せて活用する、活用方法については、一部を抜粋、強調して活用する、校区ごとに活用することも可能です。さらに、それをどういう人たちで話し合って、どう発信していくかということについては、基本目標の1番に、「地域福祉基本計画および地域福祉活動計画の内容が市民に届く」、「効果的な広報が行われるように、関連部署および関係する機関と連携調整して発信する」ということになっています。校区社協だけでなく、私達が連携しながら、個々の団体に対してはこういう方法にしましょうということを話し合いながら、発信していくということです。迷ったときには、協議会や委員会の中で、相談しながらしっかり決めて、発信していくというやり方をイメージしております。以上です。情報発信ですが、せっかく全戸配布している社協いずみは意外と読まれていない。すこし多いですが、町会の回覧板と同じ程度です。市の広報や市のホームページのほうがを圧倒的に多いので、いろんな方法で多重的に多様的に複数回、発信しないとなかなか伝わらない。インターネットも口コミも必要です。色々な人たちに多様な情報が複数の方法で発信していくというのが大事です。1回だけの発信で伝わりにくいので、社協、自治会、各種団体、民生委員、色々な団体から色々な方法で発信していくというのが、必要ではないかと思います。これは、和泉市だけでなく、全国的な問題で、例えば1人10万円の給付をもらえなかった方など全国でいろんな問題になっています。皆さん方も団体で色々と頑張っていただく必要がある。社協さんも、もっと見てもらえるような紙面の工夫、色刷りや、イラスト、見出しを行政用語ではなく、もっと簡単な言葉にするなどの指針を出せばいいのではと思います。私は光明台南校区に住んでいて、毎月、連合自治会のニュース、各自治会のニュース、子ども会、防災防犯のニュースを載せた校区新聞を作っています。そういったことを各地域の人がしやすいように、自治会でも、社協でも使えるような、何らかのツールを皆さんにお渡しする、金額的な援助をしてあげるなどの共助の公助が必要なのでは。うちであれば、1年間で1850部作って10万円くらいです。あまり難しいことをやってなく、データをもらってまとめた校区新聞を各戸に配っています。この取り組みをどうしていけばいいか、一つの参考にしていただければと思っています。ありがとうございます。簡単なことと言ってもなかなかできないですし、10万円もかかるとなれば自治会にとっては大変なので、行政の支援があればずいぶん違うと思います。横山校区で、校区単位で何をやるかという、単位が小さくなってくると、私達がこの中に含まれているという、身近に感じられていいと思います。ただ、例えば「男性も参加しやすいサロン活動を行い、男性ボランティアを増やす」っていうのは、どの校区でも通用します。同じようなことを書かれたら、こちらはわからないです。例えば「地域に合った防災訓練や研修等を行い、減災の取り組みを進める」と書いていますが、ここで考えが止まってしまうと、何もできなくなってしまう。地域に合った防災というのは、横山は横山にあった防災をそこで考えて市民に下ろす。山が多いとこだから、こういう風な防災とか減災とか、具体的には出てこないと難しい。和泉市は縦長の地形なので、地域の特性も場所によって変わります。具体的な取り組みのその次というところは、校区によっては、今年度中からどう取り組んでいくかを話し合おうと言ってくださっています。1回目は、まず優先的にどうしていきますかの話から、どういう取り組み、どういう人たちと一緒にどういう話し合いをしていくかを決めていきます。話し合いに参加してくださいと、いろんな方をお呼びさせてもらって、住民さんたちみんなで話ができるように工夫していきたいと思っています。また、協議の場で話し合った内容についても、地域の住民に届くように、しっかり発信していくことを、目標としていますので、地域とご相談しながら丁寧に発信していければと思います。私は一市民ですので、自分たちが活動する姿で、喜んでもらえる様子を見ると、やる気がでるし、また活動されている方も支援を受けられる方も目標に近づいていくのではと思います。基本目標も計画も立派なものを作成しているが、それは灯台の向こうにあって、船は灯台に向かって進むことが、ダッチロールのように横向いて進んだりしていても、そこに向かっていたらそれでよい。灯台までの距離が問題で、行動や目標がしっかりできていても、灯台にどれだけ近づくかが問題だと思います。校区ごとの抽象的な目標が一歩進んで見える形で、具体的な形で書かないといけないということですね。校区に下りてきたときに、具体的に何をするかが見えてこないといけない。目標というのは、少し分かりにくいものですからね。これはホームページで公開するものですか。冊子にして配布するものですか。今のところ、全戸配布は考えていません。これまでは市で計画を作成した場合、概要版を、広報と一緒に織り込んで全戸配布をしていましたが、現在は方向性を見直しています。データで確認していただいて、必要なときに印刷して確認いただくという方向性でございます。和泉市のLINEで発信するのはどうでしょうか。LINEを使って発信するのも一つ有効な方法かと思いますので、検討させていただきます。いろんなご意見いただきましたけども、障がい者団体の方や、高齢者施設の方がおられますから、高齢者の立場、障がい者の立場で、何かそんなお気づきのことありましたらお願いします。どんな世代の人がどんなツールを使って、どうやって情報を得ているのかを探ったら、携帯を開いても出てくる、ポスト開けても入っている、みたいなアプローチをすれば、まずこの計画に興味を持ってもらえるのかなと思いました。そこから障がい者が情報を得る手段として何があるかといいますと、例えば発達障がいの方は、能登半島地震でも問題になっていますが、TikTok、YouTubeとかに固執していて、それがないと暴れるみたいな方もいます。まず電気のない今の被災地の中では、福祉避難所などでもおだやかに生活できないというニュースがあったりします。障がいの種類によっては、紙よりも、SNSのような電子機器で、映像や音楽みたいなものの方が情報を読み取りやすいかなと。それにつられてその周りの介助者であったり家族であったりも、同じように情報を受け取れるのではないかと思いながら聞いておりました。ありがとうございました。これ1本で行こうと言わずに、この人たちにはどんな情報の伝え方をすればいいのか、その多様性に寄り添うのは難しいですが、できるだけ1人1人に伝わるようなことを工夫いただければと思います。高齢福祉という側面から考えていましたが、情報が伝わりにくいのはあると思います。各校区でも、自治会でも、高齢者の方の見守りであるとか、集まれる場作り、そういったものは考えていただいているかと思います。高齢者に限ったことではなく、子どもの見守りなども含めて考えていただいていると思いますが、福祉の立場からすると、ケアマネージャーが最低でも担当をしている方に対して月1回は最低訪問していますので、そういうときに何かツールがあれば広く伝えていける。同じ内容も繰り返しになっても伝えていけるのではと思っています。まずはそういういう形でも、高齢分野も活用していただけるのではないかと思います。ありがとうございます。子ども食堂やっている奥野さんはどうですか。今の若い方は、本当に自治会に入っていなくて、広報などは見ない。でも、LINEで和泉市の広報は見ています。簡単でいいので、大事な部分を抜粋して、LINEを送っていただいたら、それが一番若い人には目につきやすいと思っています。ありがとうございます。公募市民の大塚さんも当事者ですので、ご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。皆さんの意見を聞きまして、情報発信の方法や、協議の場などのお話を聞いてショックを受けた面もあります。私は聴覚障がいを持っていますので、周囲の地域の人たちとの交流が本当にない状況です。資料の中でもありますが、今回の能登半島地震のような地震が起きたときの場合の連絡方法も難しく、生活の中での心配もあります。憩いの家「英」というところに聴覚障がい者として入っております。聴覚障がいの方が4人参加して、手話の塾などもやっています。しかし、地域の交流の場では、なかなか手話が通じず、コミュニケーションをとるのは難しいです。社協の方も色々と知識持っていらっしゃるかと思いますので、教えていただきながら学んでいきたいと思います。憩いの家「英」というのは、障がいがあっても、高齢になっても集える場所ということを念頭に置いて活動しています。このアンケートを見ますと、「どんな集える場所がありますか」ということで、「暮らしに役立つ情報を得たい」とか「子どもと高齢者までが誰でも参加できる場所」、「お年寄りになっても自分の持っているものを活かせる」などを前提にして、一般の方も自分らしさを出せるというような場所を目指しています。これを見本として、このアンケートにあるようなことや、今後、福祉の場所としてモデル的に育て上げていこうという動きが地域にどんどん広がっていくと、孤独にならない、そこに行けば何かしら交流ができるということを理解していただくこと大切かなと思います。それが、指針のベース、共助の公助だということを示していただくと非常にわかりやすいかなと思います。校区のプランは、日本全国同じで、防災であったり、近所づきあいであったりという、まさしく向こう3軒両隣のことで出てきます。例えば、今日配っていただいた社協アンケートの集計。20代の方の満足度は、たった2%、これ非常に危機的な状況だと思います。人口の比率がどんどん変わっていく中で、小学校生が減っている、高齢者が増えている、こういった情報は、5年に1回度の国勢調査で、小学校単位、何とか町の1丁目2丁目3丁目も含めて、全部ネットで公開されています。なので、5年前、10年前、15年前、を全部比較すれば、人がどんなふうに増えているのか、減っているのか、自然増とか減とかが分かります。私達学者は何とか町の1丁目2丁目3丁目という単位で、分析をしています。でも地域の方は数字はご存知なく現状を肌感覚だけで感じているだけです。過去の数字を見れば、これからどうなっていくが分かります。市社協さんもちろんデータ持っているはずなので、小校校区別のアクションプランでも、そういったサポートもしていかないと、地域の方も気付かないのではないかと思います。市全体の中でいえば、2%だけども、一部の地域ではもっと満足度が高い。そういったこともあります。2%ではなく2人ですね。たった2人。これは危機的な状況だと思っています。障がい者が孤立されているように、20代の若い方も孤立されているので、これをどうするかというのが問題です。障がい者の話も大事ですが、外国人もこれから急増します。特に大阪、和泉市もだんだん増えてきています。そうすれば、外国人の孤立問題は大きなことなので、これから地域でどう受け入れるのか、この計画をきっかけにぜひ議論もやっていただいたらありがたいと思っています。最後に何点か質問があります。まず、この社協アンケートの集計はどこに入れるのですか。アンケートの分析がない。アンケート調査は、その評価が一番大事だと思います。広報誌の作り方は、その優秀な小学校のPTAや市の広報誌を見れば分かります。そのノウハウを見習うだけです。もう一つ本人を中心にしたイメージで、権利擁護で、後見制度の話が中心ですが、この表の市町村部局は、和泉市役所なのか、和泉市福祉部なのか等も含めて、整理をしていただかないと、市民から見たら非常にわかりにくい。最後に35ページが市ということで市の福祉総務課と記載されていますが、36ページは社会福祉協議会と記載されています。これも実施主体が、市社会福祉協議会なのか、校区社協、全国社協、府社協なのかを、きちんと明示しないと、市民からかえって誤解を招くのではないでしょうか。ありがとうございます。言葉で言えば、「取り組み」と「取組み」。同じ行の中に「り」が入っているものと、入っていないものがあります。ここはやはり読む側の信頼の問題ですから、いい加減なものと思われたらそれでおしまいです。あとは、31ページの基本目標3。要修正と書いてあるので、修正は入るかと思いますが、「誰もが担い手(主人公)」ということは、担い手にならないと和泉市の主人公になれないのかという、誤解を生みかねないと思います。担わなくても主人公になれるようなまちであってほしいなと思います。高齢者や障がい者の立場でいうと、担うことはなかなか難しい、逆に言えば、障がい者も高齢者も子どもでも、担えるようなまちづくりをしていただくことも大事かなと思いました。もし他にお気づきのことあれば、細かいことでも遠慮なく言っていただければと思います。石田委員長ありがとうございました。それでは最後に、吉田副市長よりお礼の挨拶をお願いいたします。社協アンケートは、回答数の%の数値をどう表現するか気をつけて仕上げます。社協アンケートは、資料編のところに市のアンケートが載っておりますので、そのあたりに入れることを考えています。次に、KPI・KGIとは何かという話も含めて、今年度の計画に盛り込めないものは、毎年修正してきますので、今年度盛り込むものと、来年度以降に改めるものと整理をして、皆様方のご意見を活用させていただきたいと思います。拠点作りは、ネットワークだけの居場所ではなく、みんなで集まれるような場所としての拠点作りというのは考えております。次に、この計画を作るには、市と市社協、市民の皆さん方が一体となって作ったというのは重点の一つだと考えております。全部が一体であるということも含めて、市民の皆様や議員の評価を受けたいと考えております。次に、音声コードですが、この計画自体が今までと違い、紙媒体中心のものから、ホームページに載せるデータ中心のものになっただけであって、障がい者への合理的配慮を弱めるということは絶対にあってはならないです。もし、紙媒体の場合でも、ホームページへ誘導するようなQRコード等をつけるなどをしていきます。次に、地域福祉を表すわかりやすい図の話で、当初は関係機関同士の関係を表した図でしたが、市民1人を中心とした絵にしないといけないのではという段階まではきていますが、まだ完成には至っていません。ベースのところに公助があって、その上に共助が積み重ねられていて、その上に自助があるという、ケーキの図をつくろうかなとは考えています。これは、SDGsの表現のときに使われるような図で、1人の人をみんながどう支えているかという問題の前に、私達の社会というのは、自助・共助・公助で協力して成り立っていることを表現することが重要ですので、今年度はその方向性で進めていきます。情報の発信方法として特に広報は、これから作っていきますが、この作ったものをどう発信していくか、どう周知するかという方法については、総論は賛成で、具体的にどうするかは案がわかれ、結局まとまらず潰れてしまう、あるいは好き勝手にやって結局効果が上がらないということになってしまうかの、どちらかだと思います。そういうことを避けるために、発信する人たち同士で連携していただければと思います。議論をして、話し合うことがとても貴重で、それらを通じて、協力関係が深まってくるかと思います。そんな協力を、私達公助に関わるメンバー同士ができていないと、市民同士の皆さんの横の連携が取れないと思いますので、委員の皆様方も含めて今日ここにいるメンバーが連携して、どうやって市民の皆さんに私達の声を届けていくかを、協力しながら考えていきたいと思っています。次に、福祉と教育との連携という大きな指示が市長からも出ておりまして、市民の声を教育現場に届けるというのは、地域福祉の大きな役割と考えていますので、今回の福祉基本計画の中に入れ込んでいきます。また、成年後見の図も国が掲げる理想は、中核機関を新たに作って、そこで統一的な事務をやるというものですが、概念上中核機関というものを設けて、市と社協で別々にやります。市と市社協がこれまで通り別々にやりますよということを、絵にしただけに過ぎません。これは図の問題ではなく、成年後見に対する私達の体制の問題だと思いますので、来年度、再来年度と修正していかないといけないと思っています。市社協、校区社協などの言葉遣いは、しっかり見直しさせていただきます。最後になりましたけれども、直前で資料をお出しして、意見をいただくという形になりました、皆様方にもまだまだ言い足りないことがあると思います。今年度作る計画につきましては、皆様方の追加の意見も拝聴したいと思っておりますし、1年に一度は内容を修正する作業をしていきたいと思っております。本当に長い大事業になりますこの委員会について、皆様方の引き続きご支援ご指導をお願いいたしまして、私からの御礼のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。 |